



葉隱問書

四

副 063
5

馬院院... 佐賀県立図書館

副 56

業隱園書卷之四

此一志勝於世世事蹟之世夏秋
書紀一忠直極神事未記一

一 或時涉世亦大事之分別又行尚何在なりしに時を努く

目代母さす世夏 日峯極何とて世持たし一業一は身

其流理るるるに世作は世

一 光代公一涉世の事百に松のりくしに隠居の時百五

伊城生野翁の岩村新傳の世之人を是に伊城の物と

能云碑く者之鐵の情流く雨を流きしに勤者之

新在室の物を入るるもたし勤者との大名の例

又持く叶のぬ者たしに世作は世

一 高源院極神歳十七歳に伏見松丸と云世の方流

屋敷に由娘入を控へ河津逆山は頃古中総及端色を水後
之納市志意 系之し 栗山七喜齋書付たり

一 之納市志意 中納少七百石のく貴中は御祝之服更
水及山肝黄山の二百石加増の貴中は其後数年亦
過りく今中多上野及分学校所方之由内之く河
津山白武百石く加増の由也 栗山七喜齋書付たり

一 有馬津場陣成有馬更作中守松平伊豆守信公
信州極小倉所裁り候も少許白細川裁申古坂松
田同元月方少小倉所着成所用茲松津所攻城
也 河津國評所用茲作六月六日江戸江津段是裁

彼所地所着進付河津関門少く當十二月晦日河津関門信
明の卯の年ハ河津所前出所進付之く河津國
進付成在る年河津中國のく其年の河津評与
河津年成在る年 栗山七喜齋書付たり

一 諸國居城攻殘是其外之城悉く可有破印く旨上意
く通國六月十日 勝茂公御奉書系也

一 勝茂公御代ハ風説書の中物と為之由申上ハ河津
城今く通國代ハ成在るの事ハ松平之支可有
く申上ハ若孫通國の事ハ通國者味く河津通國之
事ハ又申上ハ河津是分松平成在る事ハ百姓在迷惑

江中何所存通の的を道通と看すは或る人の書付
是より中古先く物語とくは乞風説書と云はれり
切者ともいふも(是も此作身是りて誰りとも好ま
此作書身是りて下たる変心は下におおぬりて支
不致曇りて可なり下たる変心は下におおぬりて支
凡統りて此作下たる変心は下におおぬりて支
つるも 金丸氏也なり

一 勝茂公少年若時を何方よりか河大石方殺入る一
死しおどけりて九州者魂と云はれりて女も中変世月
十振りと申すは河一産る所 勝茂公は此作身是りて

有子と云はれりて此作身是りて女も中変世月
心難張りて公河進むは此作身是りて九州者存是り
此評判と通九州者魂と云はれりて女も中変世月
と云はれりて此作身是りて女も中変世月
信濃守及び西國守之と云はれりて此作身是りて
かや極く変心は下たる変心は下におおぬりて支
是り下たる変心は下たる変心は下におおぬりて支

一 明暦三年河内中戸大石方殺入る一
之紀伊柳大將は乞風説書と云はれりて
たる也一は此作身是りて女も中変世月

御城守も大御心定謀叛し企てて扱はしめ時違御車
り故去の見え各一々張作三階の御上り勢
御遠見りく氣遣仕間補ひ方角兵火く色く
と張作の由

一 勝茂の御目附出探し内中目附九郎山不ふり
申す如敷せり中務手せり中尻子かつけ行は杖と突
張哉の極子と張作付在り申す

一 勝茂の御代白石百姓困乏申す者武指を度所
慶貞を目し根武指一取願仕り子孫とて
胃心成更へ方大友成調在度是公承の家一果

御是下中申す是は身白今申すは子孫不持仕張
在は叔又御正苗月毎子孫惣所寺系信仕
年御忘る言は成根仕り申す雷門和尚也

一 勝茂の御代御付集り用ひ之者子孫と願入
仕遊は其法又右者不所跡者付し益も
不しは得九所書一通は云類し上子孫
付く事所應是申す其後又一入
成所尋は仕御信子御書一通は上子孫
孫者何は是申す上子孫則御排
成り申す令九代也

一代者、時を初、上下、新、民、思、付、り、在、り、ま、る、る、の、向、り、と
此、作、り、中、金、丸、氏、也、之、

一 忠直公、御、十、五、歳、之、時、分、所、基、不、子、男、女、禮、と、佛、に、
付、く、是、禮、者、亦、擲、り、多、一、条、と、是、禮、と、子、男、切、教、
中、之、初、上、下、之、禮、儀、と、亦、違、り、手、段、及、場、り、は、死、罪、と、
此、作、付、り、年、半、中、の、事、上、に、忠、直、公、此、間、上、下、之、
禮、儀、と、肯、り、と、女、士、道、と、述、り、り、と、何、也、哉、後、可、成、以、
此、作、付、り、年、半、中、之、事、又、此、事、一、急、に、手、時、罪、之、繁、及、り、
禮、に、付、く、書、物、に、讀、り、中、指、く、小、屋、に、此、行、入、り、極、に、
此、作、付、り、り、一、金、丸、氏、也、之、

一 忠直公、所、傳、之、人、不、應、仁、重、死、罪、と、亦、極、作、付、有、り、以、此、
高、原、院、極、の、所、之、事、也、忠、直、公、此、間、上、下、之、
不、能、成、事、に、亦、助、り、儀、不、五、十、に、御、女、儀、極、也、此、極、事、に、
中、之、初、上、下、之、事、亦、此、作、中、り、及、中、相、及、此、儀、切、り、然、に、
高、原、院、極、の、所、合、也、不、能、遊、也、と、此、作、之、度、受、者、此、事、
上、下、之、禮、非、と、一、至、助、事、中、此、作、上、下、助、事、及、り、此、儀、
罪、科、難、遊、者、与、り、故、高、原、院、極、の、所、内、意、此、作、上、下、之、道、
此、遊、り、中、金、丸、氏、也、之、

一 忠直公、所、若、年、之、時、分、修、建、正、宗、の、所、相、伝、此、出、此、故、
種、之、以、及、持、り、り、と、亦、違、り、手、段、及、場、り、は、死、罪、
種、之、以、及、持、り、り、と、亦、違、り、手、段、及、場、り、は、死、罪、

此車与公儀首尾更受家藏神符一記との取所也
有し以内御用々々江戸公儀為下中上中内奉務中
筑前守及中上守若及雜儀不之儀符不之儀符在
之更に守符中下中中此取外無く内ハ氣也々々
と以道中宿々々地脚望海の地九心之七中
来江戸近々々地脚系之符筑前守及之腹首尾能
付斗入魂与及雜儀之符筑前守及之腹首尾能
其後江戸乃揚也安政成以中又一説ハ廣徳迄何更
中国筋強弱有之符也 勝茂之符筑前守及以同通
江戸下成以安政協法作合一之符江戸御々成中々々

勝茂公御通之遊符之符筑前守及之腹与史公御中更
安政成以之符又大坂石川道徳与不和之符成以之
右高石垣之符筑前守及以一之符江戸細川
立花拓也不和之符不之符中あり

一 勝茂公ハ元朝毎日夜内ハ与賀社江戸系符遊以右之符与
鴻内新集ハ一因也々々不之符中云心符取歳夜公私
之祝海々々今与賀之符之四方ハ地之符也

一 明一江戸系符以後也江戸城在也中
勝茂公御之武士た者ハ二十八枚ハ歯と走々地也
物毎持以也ハ成以也

一 佛事行十人 高三天寸了刀成也 七 成連中 七
不圖出河成也 度之 河成也 成也 七 其後 河成也
板合 河成也 得也 夫分寸了長子刀也 七 成
成 成也 七 又 成也 守の刀也 成也 七 成
會也 成也 七

一 所閉門之時 合也 百人 成也 七 成也 七 所
宅 成也 七 成也 七 成也 七 成也 七 成也 七
之 成也 七 成也 七 成也 七 成也 七 成也 七
年 成也 七 成也 七 成也 七 成也 七 成也 七
成也 七 成也 七 成也 七 成也 七 成也 七

一 出家地方 年限 成也 七 其後 成也 七 成也 七
寺 成也 七 成也 七 成也 七 成也 七 成也 七
一 所閉門 成也 七 成也 七 成也 七 成也 七 成也 七
月 成也 七 成也 七 成也 七 成也 七 成也 七
其 成也 七 成也 七 成也 七 成也 七 成也 七
成也 七 成也 七 成也 七 成也 七 成也 七
成也 七 成也 七 成也 七 成也 七 成也 七
成也 七 成也 七 成也 七 成也 七 成也 七

一 勝義公 成也 七 成也 七 成也 七 成也 七 成也 七
八 成也 七 成也 七 成也 七 成也 七 成也 七
一 成也 七 成也 七 成也 七 成也 七 成也 七

一家中者尚及之取矣不中

一 家中病者出来不中

右二條之由公御死去年之御願書残り可中

一 男味し申たり

一天正年中又勝茂上人修音坊と真言し檀者あり生

國伊豆之又右羽二十六部し札と打神伊那智福寺

信一後寺井長後寺の年信直茂公度

由拓得石成石井の直茂公の厚恩不御教思の交免我決定

志之當也の直茂公の法城之國の可治之

直茂公の

五十六年の頻法の得九策の名成阿運

改小和の寺井海の北山の宿卷上人法相定

如りも余合共の水定の同和の阿運の

けり我國の生かの系の片方の死の

片方の不の有の又海の不の夜の火城の可の現の合の帶の稱の石

一の水定の江の見物の杖の後の其の後の死の

長福寺の東の一所の葉の込の平の之の松の二の中の柱の今の上の

勝茂城の中の山の上の人の獄の之の山の有の也の伊の勢の松の極

涉長年の後の勝茂公の年の將の上の人の再の来の之の況

有又一説又上人水定ハ 勝茂公御書生以後之變なり
 始九再来之授多クハ松ノ例有リ 聖徳太子ハ南岳
 太子ノ再来トシ 徳山太子御出生以後ハ南岳ニ遷化是
 勝茂公御遺言痛ハ何カ長福寺ノ本寺ニ藥師ノ願子
 御和ハ御作古ハ御平毎ニ之給馬出定ニ於テ今有リ也
 一 勝茂公御禮日御退書ノ時ハ林道春不圖カ云云 瑞瑞
 之御先祖誰ニシテハ之ノ御宗ノ御宗元傳不徒成ニ於
 得ハ御高徳ノ御了ノ言多ク 十載ノ御宗ノ御宗ノ御宗
 叔ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗
 海中書後ハ之御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗

- 平原書卷ノ十載ノ系圖所持仕在リ 或ハ此ノ上ノ御系
 圖書ニ 公儀ニ在リ 一説ハ 道樹極ニ在リ
 末ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗
 一 勝茂公御代加判御宗先瑞瑞安撫書 瑞瑞云 蕭系
 此ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗
 一 同御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗
 一 松平公御書 勝茂公ノ書ニ之ニ 松平ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗
 其ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗
 一 肥前御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗
 野田七書ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗ノ御宗

賣拂に軍計目付の云に仁は其後七右衛門沙前と稱す
の時酒は此御少の云く極く変と云ふ其方の極く成
仁可変の如く極似と云ふ其方へは沙法波の如く有る
存其方の如く是の派の極く極くと云ふ成の如く也

一 中野重信仁立の時不道夏有るは御目付より
言に仁は重之助と云ふ極く極く成の如く極く極くと
謂ふは御少の時此腹の極く極く成の如く也

一 寛永九年加茂肥後守重信は其家来在城と持
はく專沙法有るは其家来近國と云ふは其方極
人救下在重信は其家来成留兵庫其時分先利為

亂打は為御命識重信は兵庫中上りと云ふ極くと
持下は武切の家は極く極く一人も生殘極く極く
其上兵指云は其家来成是るは其方極くと云ふ
近年著強兵指用意は其家来三年と云指極くと
其家来成不延成極く極く持下は極くと云ふ
又極く公儀も上方町人の御御肥後守重信買取上
方は其家来極くと云ふ

一 勝茂公御具是祝は其家来御御極く極く成の如く也

一 御目人極元朝共賀本元白山八幡は其家来極くと
或年元日御御極くと云ふ其家来極くと云ふ其方極くと

一 成之文川仕久之成道意以甲州櫻河乃山小澤初何也
 二 社法系法系成以付私高跡乃系法仕以故近系仕也
 与社作以 公仕作以看其方拓元朝之系法及以公禁
 以神支親成不仕成仕在國与 公方極以神目見茂
 不仕我公上以禮我歳之初小云以故之社系法中更
 以公其方拓以我公礼儀中乃白在解更以中神意強
 成以重 先茂公元朝小向陽軒以神宮法系法系托
 中更之

一 勝茂公神代三德善院法代与先正山以年龍以筆書与
 神領書所龍所成以其意起也

一 公儀神首尾道以松少以更
 一 神國家神長神子孫神無昌以事
 一 神家中以神用之立以者也来以松少以事
 一 子系之元祖父母成不意童子現其胎子太刀一振也見
 菩薩之像一幅有以成長之後國古有以是公或時
 雷右以太刀小堂とをけ落たり拓中以我者子成是友
 也公中今瓦形河以子系流頼不傳以故没落以神
 代家之寄宿乃右以二處也神代家以張持傳以
 勝茂公法中乃及大故友及小所不坐是成今神城法什物
 成其古以神澄文神代家者以以中

一 勝茂公所屬野山出立成台其地是甲斐守願と札と立
有るは成法院に成孫の所立腹と申札成法院也
御所御城之法成誓し相立かけ成法院に甲州棟出登
城之を以て成孫成孫の所立腹と申札成法院
上は為科代鶴二連法院上は成孫の所立腹と申札成法院

川中

一 甲州棟出登城之成孫の所立腹と申札成法院

勝茂公は成孫の所立腹と申札成法院
成孫の所立腹と申札成法院
公は成孫の所立腹と申札成法院

成孫の所立腹と申札成法院
成孫の所立腹と申札成法院

一 勝茂公白石所屬野山出立成孫の所立腹と申札成法院
百姓家より所立成孫の所立腹と申札成法院

今朝の一日は成孫の所立腹と申札成法院

中は成孫の所立腹と申札成法院
成孫の所立腹と申札成法院

成孫の所立腹と申札成法院
成孫の所立腹と申札成法院

成孫の所立腹と申札成法院
成孫の所立腹と申札成法院

中其肉法光中法及持之 大形志識定其成
紀列極江元我法作甚之平又出其事之先年甲斐守に
松平伊豆守及息女以縁組其成其後中絶守及娘と再
縁組成其有伊豆守縁切道味之く在成加賀守不
之四家中者縁組法作付之其守好他方縁組
法作付之末之他家之極之其成法家之害之其成更
可有出之 日峯様作至之我法家法歌守印之
守守万安中法作守重之十之極之儀之と好之由中其
川之何之其法其止法清平八後在江平江其辨其成
其成及之息女 勝茂公之法孫之与之法其子其成

御本丸之与法養育之成趣之由之其法作付之縁切加賀
及之其法其止法清平八後在江平江其辨其成
勝茂公徳寿院及長壽院及由出見之其成其法其止
清清式部吏法清平八後在江平江其辨其成
右有清光院及殘之極之其法其止法清平八後在江平江其辨其成
由縁縁組法作付之法光院及登城之其成
勝茂公法上下之与次之間合法其成其法其止法清平八後在江平江其辨其成
登城去之由 政家公之法其成

一 勝茂公西目法其成其法其止法清平八後在江平江其辨其成
其法其止法清平八後在江平江其辨其成

日峯極淨位牌の披露ありし中

一 勝茂公より延成少将より奉公人々四道有物の如くたり
多かり急きりく多かりく之急少中何れ時能
文合更成能調者多し是以上と有りかぬ若くは後地
吉聖杯急きりく似たる者多かり急少中何れ時不并
事成調更少多し若くは後地者之中評技馬多し有
急たり一急たり一急たり何れ成程時より更成調の
本より入る矢引より者之是少多きもの之其外書
多かりく之と張作し中

一 松平下総守及西丸之 將軍極淨位牌延成少将より

此所方より漢古躍と延成少将より極少と此類成少故中
姓宿御子極方謝し之と此撰り成躍以此之拍子方
之侍救へ延成少将より此類之文字新より化し世に成
此為須長先延成少将より此類

一 勝茂公高傳寺河系落し言し何れ此吸物中か或時
所吸物乃上中か知り此意延成少将より例之通巨膚
し此吸物延成少将より極少と延成少将より故に延成少将より
一 勝茂公軍物延成少将より高麗之加茂在馬次款取
延成少将より延成少将より此類之也
款取又延成少将より此類之也
大岡極淨位牌之此類

見よ由清沈せしる花よりも何より我北馬女御程之申
なる事ハ心よりしと汝作の申又上方より立花責良作
付の御禮に言井御直政奏者よりか聞ケ来之肩
先に手負道に付白蛇切道より申の首よりかけ片も
流きしころの他法容儀勢の事成生詞にも
申のしるし天下無双の英雄勇士百老の端と云
記武士ありと汝成の志し申

一 恭盛院極御一周忌御法事之旨御冥前方没御一生
御膳上の人々も古田共在申て此申の旨御付の旨
勅定し書付酒之不入の申書御旨の没入の旨是の

書遠くく有し申事ハ共在申中ハ公方と書遠く
申し各の御供の事云ふ所故に極申の拙者御年
在御所給の儀能存し者身今度没御付の旨先
恭盛院極御一代朝夕夜に之度し御酒申梳と云
宛一日九つ迄百上の儀之取重し助成初武指入
下戸事にも申し御法事申何卒上中御酒
成りし極の存し人々御評成爲し故者申し
各家に五預料目之間進上給入御酒と云
了御九の存しし時之申事申入申しと云
中ハ申

一 勝茂公と至 光茂公は佛代清浄成就の氣方亦々佛斗
く御書物法五度皆以 直茂公御意斗々白其内
直茂公御病氣治るる作の月廿六日 勝茂公御面法の時
は作のく國家成就るる能き人と相極りく由意成就
は丈の能き人 亦亦の極り立願杯の付中物と白りて
は尋訪成就得る 直茂公御作のく惣白人力も不及事成
佛神の御作中物と白能き人 亦亦の復り我力の成就
なりと御作の丈の如何極りは得る出来中りての意
く御尋訪成就得る物毎枚寄り物に集りよの之花は
枚寄り得る今と一極も持不中者も誓り百の集

世に聖の元杯亦亦中者與其とく人 亦枚寄り得る其
儀亦亦の光の亦枚寄り中と白りて御意成就は又何
半の心誠と白云くは得る意不立由其外枚條有る
一 勝茂公白石御逗留の時分夜に入御作成就り白りて
御作成就は得る月法の極り袖巻く裏の人陰
中は御作の起御遊御座ぐるも又御作成就は得る
切是趣り裏に立り者大袈裟の切落成就は此者も
誰にも不在氣亦亦是 一堂と白下有るく御作成就
右御作の加賀清光とく 光茂公御若年の時分
御定是の御進の後 御作の御進は其の古き物と

丁酉夏の——に松と石作付中溝すは信之朋切為
中の中 金九式也

一 白石秀林寺之事

勝茂公法將之為白石逗留之所分 即先祖法所

殆日之為法燒香秀林寺法庭之法遊之中之

一 高深院極法自年之寫 本書善總庵有之中

志お徳友たはらちちとらまきとの心持の

三徳友の十 十日馬渡新七考之

一 乙酉八月の辰 十月廿八日 子の日の 子の 子の 子の

一 乙酉八月の辰 子の日の 子の日の 子の日の 子の日の 子の日の

一 乙酉八月の辰 子の日の 子の日の 子の日の 子の日の 子の日の

一 乙酉八月の辰 子の日の 子の日の 子の日の 子の日の 子の日の

けんじさんねんねんねんねんねんねん

たんふるたに

一 乙酉八月の辰 子の日の 子の日の 子の日の 子の日の 子の日の

一 乙酉八月の辰 子の日の 子の日の 子の日の 子の日の 子の日の

おかの十三

一 乙酉八月の辰 子の日の 子の日の 子の日の 子の日の 子の日の

おらしち

一 乙酉八月の辰 子の日の 子の日の 子の日の 子の日の 子の日の

作如中使 助在軍政時人

一 勝茂公所代心所家津大身小川、と云は子と云十一二歳
より御側、在仁諸事、法指南は遊御用、三十者叔
（出来仁七十四人相法中、中副急、八在急、四十歳と
為御勤急、仁十歳と云、繁之、小姓、高、丈故、高、高、
法勝子、在存、江戸御國諸没、事、仁、到、少、到、以、大、名
方、以、然、仁、到、以、故、所、頼、以、之、知、御、前、到、以、付、當、も、深、元、服
以後、子、進、公、御、用、お、立、中、仁、叔、又、親、高、果、以、時、分、本、知、を
不、在、仁、付、初、少、仁、時、分、公、御、奉、公、励、中、仁、一、在、御、系、勤
仁、時、分、出、原、公、公、派、仁、所、使、志、上、仁、妻、細、法、元、中、方、仁、忠、

任作入、有、仁、品、儀、之中、仁、吟、味、成、以、得、在、上、成、中
付、心、仁、息、以、者、中、仁、小、姓、每、夜、作、夜、と、元、服、任、作、付
以、使、志、上、任、指、上、仁、忠

一 勝茂公常仁御用、仁、人、数、一、百、五、朝、解、七、十、年、仁、在、陣
仁、用、意、任、在、仁、中、仁、不、叶、夏、之、重、仁、異、國、友、合、仁、所、不
覺、快、方、能、任、仁、作、仁、道、難、智、方、出、精、任、入、仁、建、基、定、所、
朝、解、在、陣、仁、由、積、帳、有、仁、忠、合、九、時、之

一 或、説、仁、勝、茂、公、所、評、定、所、法、中、仁、時、夜、肉、法、由、及、以、出
甲、別、棟、手、燭、紀、別、棟、御、腰、物、所、持、以、和、形、成、紀、別、棟、之
在、中、行、以、儀、任、成、仁、所、評、定、不、法、上、仁、成、仁、時、御、腰、物、為、

成爲くはと帝の治を紀州楨に作は私大小の心
中は所服の心なりは白雲の極と作其身は大小の云
開く氣を振振奥の心流くは通は成は 勝茂公一通
紀伊の事細中へ世友へと作は付は下書り時愛后
の外に腹へ更へ付は往くは是へ 不及の節直に再
之有くは時間内を出入の茶邊に茶飲了るは一大事
に一事を得て得る存付可上は山免成り後と平性
小なり書物二巻及右妻の御書とりて傳は御年譜不
そ紀州楨に書り後不見は也

一 勝茂公は所侍の侍は入法藏間に四方に在り刀引
也一不寐更は仁公諸更に角は所は組は在り是に付於今
御城に不寐更有し也

一 勝茂公或時山侍は小身成る者程元成志に十万安に
又後子も山侍は更當りて作は是に建合九代

一 御家先中は作は公事山侍裁評に何卒死罪者
成松の心得く兼りて山中は 直茂公は作は更
成合おちく不忘は故中濃に中又大更の時酒不入更に
也白酒は不好物に申は是も 直茂公は成は是に作

了中 合九代 書り

一 寄合日之書付と沙流見成るく此作本ハ全識之書
 付難勢方斗りくハ國家之事一夏茂ニ見沙流臨
 不慮子弟と殊く外沙河リ托本ハ此作本ハ中
 一 德善十二坊法建立の時隨分法信心成付入用又
 言少紀承法其根々右調利事法淨又信々仁
 川極々山中前神也
 此中ハ中 智 勝茂公中平之御書物

一 了蘭杖蒲原流之序ハ以舟中上其長衣之書付寫
 一 義盛院極沙死去之地何方々々
 一 高源院極右同刺

一 惠照院極同刺
沙流見成るく此作本ハ全識之書
 一 貞國院極同刺
私云右ハ三指
 一 義峯極出包安如何方々々

一 寛永十二年四月 勝茂公沙中國石薬師病法河江戶
 一 花柳系者 忠直極沙死去ハ此ハ二度此病
 一 所泊流成方安ハ此作本其以後此家中ハ者ハ一病不
 仁ハ中於今ハ本陣沙目見ハ不此作付中
 一 此後去遠今年 勝茂公沙在府之石薬師中陣ハ細
 一 追分不尋

一 寛永二年 肥前極沙證者ハ長伊豆吉
此後去遠今年

此一箱進上仁躬七寸九文字之史此進

光茂云其在肉核、此進上仁躬七寸九文字之史此進

深江一壘、此進上仁躬七寸九文字之史此進

或說右、此進上仁躬七寸九文字之史此進

此儀、此進上仁躬七寸九文字之史此進

重中、此進上仁躬七寸九文字之史此進

一肥前極進腹林形也、此進上仁躬七寸九文字之史此進

人、此進上仁躬七寸九文字之史此進

一日也、此進上仁躬七寸九文字之史此進

以守、此進上仁躬七寸九文字之史此進

一壽在、此進上仁躬七寸九文字之史此進

勝茂云、此進上仁躬七寸九文字之史此進

中者、此進上仁躬七寸九文字之史此進

茂子、此進上仁躬七寸九文字之史此進

五果、此進上仁躬七寸九文字之史此進

不存、此進上仁躬七寸九文字之史此進

兼、此進上仁躬七寸九文字之史此進

何白、此進上仁躬七寸九文字之史此進

存者、此進上仁躬七寸九文字之史此進

一日本、此進上仁躬七寸九文字之史此進

年、沖法事と、沖法命を成り安んぶ此第一度了成
一、高僧經云五洲之上僧衆は沖法に振て沖親類
沖家光中も列座高僧物語に遊りて

日峯極沖意、我十二年忌述國と法見り得り此作日
此沖一言大事、存大寺成荷よりなり是夜心とあり
國と作る事、のこり苦方、一、又十二年忌述
今古六年、一、無別條大慶寺此と、沖法流
一、沖法中

先亡物語云此時系、殿極沖自ら沖骨と云打付
卒國成不失り極家、連續用、立り者書来り極と

心是不淺、後、身と沖家中、先も何卒沖家流長之成
中、極と五部、沖國家、其身、了、抑、は、身、と、上、中、了、志
行、波、能、人、も、多、く、書、来、沖、國、家、厚、く、お、見、又
日峯極沖遺言國語、一、復、在、取、り、り、命、限、り、記、し
了、身、の、諸、佛、家、一、味、同、心、又、先、後、位、は、其、是、威、徳、日、の、字
此、沖、光、り、今、の、世、と、耀、り、云、此、は、沖、家、と、一、是、我、身、と、
若、り、身、も、先、に、極、有、度、也

一、高僧奇親、迦堂、沖、建立、し、時、分、中、奉、**沖**、頭、人、石、井、十、助
中、喧嘩、仕、事、も、切、教、り、身、建、沖、耳、と、云、又、沖、佛、
對、一、世、長、何、極、科、一、也、先、記、成、り、中、記、作、書

官清利三傳中是 勝茂公所生之肉常清意成只
其身極淨命日八系福不仕之先以來以家中一老淨佛又
所無所法江百為之と云り唐公淨和之語法住因極高
川と出家家五法因帳一每度利三傳法使物一而
宛以江法也

一 明曆二年 勝茂公所系勅之以供多之矣也當一乞
在登公翌年所隱居 先茂公淨家督之所統之付
負也當 公儀江淨目見之是是也若くは又不獲成也
一切余之 江是也
先年甲別根心及之之極子之見法事申念是不

江所家之大夏と好英也當怨与江戸我哉

先茂公所及之之儀中叶並之付世暫り因為る申中
之西儀江の然也云々 淨目見之は得て其字之々
在登り之極之在成之付法江りて存入有之々の夏に
公方極江西法之用事云々之々切也

一 勝茂公淨病氣是是是之付分 先茂公江 志波寺也

中上之私儀も急之所儀之由物来中上之淨本腹不定
所見之は極之付命暫り所先、腹と江自然所本後
之儀も之有之北代之在好之何道之儀江儀之由分也
是是之極之申上之付増上寺方丈江命暫り中上

つとつたかたつ引立つ内又つ入るたつて

一 冲葉没来女お勤所除終つ所沖葉道具お碎沖葉
没来お車 光茂公沖葉高沖葉お刻上り

たつ白女へ 与沖河水お仕也沖葉お車入る備込入る
在り不圓起上り 殿へ入る沖葉お成り一列も進め

一 活衣し終る春おり終る大廣間も英化書
初沖例お格も高並居り友人おと実行も救

年一西起意新波不及中活衣終りも裁目活衣
お下り夏は去りてお活衣と一も活通は後

活通お印も活衣おくも一も活勇の英化書

夢おお疏りお送リつ曲者おつて斗常の

空へ助るおおと終へる車次りも活慣の来

女へお心おつて日へ骨体お又行水へも少へお

体へおつてお智度入目覚るも枝有利お車

別へ毛種おたりへも一付二階へも一扱へ毛

種へお髪追服お借へ谷子お車お仕へ也

或へ云へ助常へ持替へる廟子へ飲へ一首有

おへ一由おつて時へおつてお世の中へ

花へおこなおる人もおとあれ

一 沖葉送迎日へも公儀へお慶おつてお初中へ不

五洲の島不陸成其地高より卑へ付りては之を強く之も
陸成中より安んじしに投者利害の正中へ付りて其心
安んじ合其地中より陸成被る所中より生其地を海潮
中より陸成形大廣間より夜白酒盛つてしに陸成被
五洲より之地子及中より其内射車より中知此の時
時陸成被る所中より終り及中より思慮の中へ
一 尤上り物強云 勝成公初白國方より陸成被る夫より働
所切版の場より陸成被る中より其又死所國より
所は是所城下より之要害難勢方より所は組等より
所一生之内其苦勞難勝斗より常より陸成被る意は此

日峯極所勉切より陸成被る國高より此より其地より
より何より其地より家より家より續りて其地より其地より
天下泰平之時代より其地より花繁り世間成
り其地より多し其地より其地より道福を
不意の時其地より内外より其地より其地より其地より
より其地より其地より其地より其地より其地より其地より
若者より其地より其地より其地より其地より其地より其地より
有方必其地より其地より其地より其地より其地より其地より
其地より其地より其地より其地より其地より其地より其地より
其地より其地より其地より其地より其地より其地より其地より
其地より其地より其地より其地より其地より其地より其地より

事不也後、心平、心快又御國內、者他方、不在
其方、他方、者不在、心平、心快、者、切腹、子孫、也
御國內、者、在、御家、中、上、下、百姓、所、人、之、何、代、也
不在、智、別、傳、源、氏、御、講、代、之、御、源、氏、不、在、中、也、事、九
之、心、他、方、之、心、平、心、快、代、り、之、心、不、在、者、事、人
限、之、他、方、之、事、更、限、之、主、後、之、縁、切、不、便、之、度、之、御、家、也
一旦、御、家、見、之、為、事、人、之、御、家、切、腹、之、子、孫、也、不、程、從
之、心、平、心、快、死、之、御、國、之、心、成、り、死、之、角、之、御、家
有、御、國、日、本、之、心、比、類、御、家、之、不、鬼、之、心、生、之、御、家
本、心、之、心、上、事、之、心、孫、更、先、祖、代、之、御、家、更、身

或、心、平、心、快、之、御、家、報、事、之、不、在、竹、之、心、平、心、快、之、御、家
念、心、中、數、代、之、御、家、報、事、之、不、在、御、家、御、用、之、御、家
覺、悟、之、胸、或、極、御、家、之、御、家、之、御、家、之、御、家、之、御、家
之、御、家、之、御、家、之、御、家、之、御、家、之、御、家、之、御、家、之、御、家
切、腹、之、御、家、之、御、家、之、御、家、之、御、家、之、御、家、之、御、家
之、御、家、之、御、家、之、御、家、之、御、家、之、御、家、之、御、家、之、御、家
覺、悟、之、御、家、之、御、家、之、御、家、之、御、家、之、御、家、之、御、家
之、御、家、之、御、家、之、御、家、之、御、家、之、御、家、之、御、家、之、御、家
傍、家、一、和、之、御、家、之、御、家、之、御、家、之、御、家、之、御、家、之、御、家
之、御、家、之、御、家、之、御、家、之、御、家、之、御、家、之、御、家、之、御、家

一 勝茂公口宣

一 次公信口宣

一 豊后清茂公有之文保四年二月十四日

一 侍次御昇進寛永三年八月十九日及原勝茂

ト有リ

一 所交順口宣

葉隠聞書卷之四終

